



10月26日「いいいたて村文化祭」でステージを終えたばかりの皆さん。1列目右端は新地町の中学校教諭で講師を務める長階彩子先生です

仲間とともに
その7
飯館
お母さんコーラス

気品のある歌声で、村の催しに華やぎを与えてくれる「飯館お母さんコーラス」。避難前は月に2回、村の公民館で夜に練習をしていました。現在は月に1回、休日の日中に避難先から集まってくる練習です。「半数しか集まれないこともありませんが少ない練習時間を大切にしています」と会長の渡邊しづえさん(飯樋町)。

「この日は村の文化祭に出演。ステージ後、伊藤明美さん(伊丹沢)は「知っている人の顔が見えて優しい気持ちで歌えました」と笑顔を見せていました。

活動データ

- 時** 現在は日程を調整しながら月に1回練習日を設定
- 所** 飯野学習センター
- 料** 月会費 1,000円
- 講師の先生の指導のもとレパートリーを増やしながら、さまざまな催しに賛助出演しています

表紙 行政区地域づくりワークショップ
5夜にわたり全行政区が数区ずつ集まり課題と方策を議論しました。特集記事もご覧ください。



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。



写真提供/福島民報社

10/19 県お母さん合唱連盟と共に行なわれる
県お母さん合唱連盟の合唱団が、アメリカ・ニューヨークの音楽の殿堂「カーネギーホール」で開かれた「カーネギー日米合唱祭」福島から未来へへに出演。そのステージに「飯館お母さんコーラス」のメンバー5人も参加し、復興への思いと支援に対する感謝を歌にこめました。合唱団は、村のまでい大使である黛まさかさん(写真左端)が作詞し、「飯館お母さんコーラス」が村の成人式で初演した「そして、春々福島から世界へ」も披露。美しく響いたハーモニーに会場からは大きな拍手が送られました。

参加した久保内久美子さん(大久保・外内)は「観客のスタンディング・オベーション(総立ちの拍手)に、ステージの上でポロポロと涙がこぼれました」とその日の感激を話していました。